

葉色が明るいライム色の 観賞用稲品種候補「青系観236号」

水稻品種開発部

1. 背景・目的

近年、観賞用稲を使った田んぼアートが注目を集め、取り組む地域や規模が拡大しています。青森産技農総研では、これまで多種多様な観賞用稲6品種を育成しましたが、田んぼアートの表現の幅を広げるため更に多彩な品種が求められています。そこで、葉色がライム色（黄色と緑色の中間色）を呈し、その色を長く維持でき、他の観賞用稲と比べ栽培しやすい「青系観236号」を育成しました。

2. 特徴・特性

- ・葉色がライム色を呈し、生育初期から登熟後期まで長く楽しめます。
- ・他の観賞用稲と比べ栽培しやすく、通常の品種と同様に栽培できます。

幼穂形成期の生育状況



左：黄稻（黄大黒）

右：まっしぐら

青系観236号

令和7年田舎館村田んぼアートの様子



青系観236号

表 「青系観236号」の主要特性

系統・品種名	出穂期	成熟期	稈長(cm)	いもち病抵抗性		耐冷性	SPAD値
				葉いもち	穂いもち		
青系観236号	8月1日	9月13日	76	強	やや強～強	やや強	32.2
つがるロマン	7月29日	9月5日	85	やや強	中～やや強	やや強	40.2
まっしぐら	7月28日	9月4日	81	強	強	中	39.9

(注) 令和5～7年、農総研（黒石市）標肥区の結果。SPAD値は幼穂形成期から成熟期にかけての平均値。

3. 現状および今後の展開

・令和7年度は田舎館田んぼアートにて、現地実証試験を行いました。今後は、品種化を目指し、青森県及び全国の田んぼアートに取り組む団体等への普及が期待されます。